

平成27年10月1日  
シニアA代表一同  
FUJIYAMA ALL STARS

この度は、8月19日から22日までの間、カナダ・ウェラントにおいて開催された第12回IDBF世界ドラゴンボート選手権大会に日本代表シニアチームとして派遣して頂き、誠にありがとうございました。また、国際大会という大きな大会にもかかわらず、日本協会の菖蒲様、森永様をはじめ、各国のIDBF関係者の皆さまが協力し、連日、炎天や荒天のなか、万全の体制で運営にあたられていたことに頭が下がる思いであり、無事に大会が終えられたことに厚くお礼申し上げます。

結果については、既に協会HPにも掲載されているとおりです。

国際レースを経験して、改めて感じたことは、日本チームと外国チームとの体格差です。体格差・・・今更の話ですが、リーチの長さが違うので、ストロークがある上でピッチを上げられると当然のことながら後半に大きく離される傾向がありました。中盤からがとにかく強い印象を受けました。その中でも200mの1本目は、強豪チームには劣りますが、40秒台とこれまでのなかで良い内容の漕ぎができたのかと思います。また、数名の選手は、プレミアミックスとシニアとをWエントリーをしましたが、これも非常に良い経験ができたかと思います。

今回のシニアクルーは、複数のチームからの混成でしたので、世界大会で感じたこの差を各チームに持ち帰ってどう埋めるかが今後の課題であり、それを追求することが各チームの底上げであり、日本選手全体の底上げに繋がると思い、今後の練習に励みたいと思います。

以上